

2026年2月5日

静岡県知事 鈴木康友 様
静岡県議会議長 竹内良訓 様

静岡図書館友の会
代表 川村美智

これからの「新静岡県立図書館」整備計画についての要望書

新静岡県立図書館の建設にご尽力くださっている鈴木知事、県議会議員の皆様、関係部署の皆様に心より感謝申し上げます。12月県議会でも熱心な質疑・答弁をいただき有難うございました。

財政難の中、私たちも計画の変更は止むをえないことと理解していますが、県立図書館は静岡県民すべての人に必要不可欠な知のインフラの要です。削減できるものと削減してはならないものとをどう仕分けるか、その方向性を慎重に対処していただきたいと思います。

新県立図書館の今後の整備については以下の点を重視してくださるよう要望致します。

1 新県立図書館の基本機能や使命、役割の維持

これまで、新県立図書館建設に向けては多くの時間や知見を得て検討されてきました。積み重ねてきた蓄積が無駄にならず生かされる形での見直し計画となることを要望します。

- ① 静岡県教育委員会による直営での運営となること
- ② 市町立図書館の支援の充実:県立図書館をハブとした物流と情報のネットワークの構築
- ③ 資料の充実と十分な予算の確保
- ④ 司書などの専門職員の充実配備
- ⑤ 資料保存(永年保存)と閲覧機能の充実整備

2 多様性と次世代を育む社会に貢献する図書館機能の充実

- ① 子ども図書研究室の児童書の全点収集は、全国的にも評価されている有数の取組みであり、市町立図書館や学校図書館を支援するとともに子ども読書推進の核ともなるものです。この政策のさらなる活用を進めてください。
- ② 多文化共生社会における図書館機能(情報提供、学習支援、文化発信、居場所づくり、関係機関との連携やアウトリーチ機能など)は、多文化共生社会の要となります。静岡県全域が多文化共生社会となるよう、県立図書館が市町図書館の多文化サービスを支援する体制を充実させてください。

3 東静岡駅南口周辺のまちづくりへの提言

グランシップや静岡芸術劇場(SPAC)の文化活動は静岡県が誇る文化・芸術の拠点として世界的に知られています。新県立図書館も、基本的な機能を損なうことなく、専門職員と充分な協議を重ねたうえで予算ありきではなく、県民の教育・文化・芸術の発展及び共生社会の実現に寄与していくことを基本姿勢としたより早い開館を望みます。



連絡先 静岡図書館友の会事務局 勝山 高
(HP)<https://shizutomo.jp>
mail:shizlib.kouryukai@gmail.com